

**近畿地方交通審議会
近畿船員部会議事録**

第209回

令和8年2月26日

日 時 令和8年2月26日(木) 16時00分から

場 所 近畿運輸局 会議室(船員部会室)

出席者 公益委員 横見委員、定岡委員、三輪委員、
安達委員

労働者委員 浦委員(WEB)、佐藤委員(WEB)、小林委員

使用者委員 磯合委員、土屋委員、開委員(欠)

運 輸 局 寺地海事振興部長、三浦海事振興部次長、
大樽船員労政課長、矢野船員労政課専門官、
濱田船員労働環境・海技資格課長

議題1. 管内の雇用等の状況について

議題2. その他

議 事 概 要

横見部会長：

それでは、ただ今から第209回近畿船員部会を開催いたします。

あらかじめお配りしております「第208回船員部会」の議事録につきまして、ご承認をお願いしたいと思っております。ご異議ございませんか。

(異議なし)

横見部会長：

無いようですので、ご承認をいただいたものとして取り扱わせていただきます。

次に、議題1の「管内の雇用等の状況」について、運輸局からご説明をお願いいたします。

大樽船員労政課長：

それでは「令和8年1月分管内雇用状況」につきまして、ご説明させていただきます。

1. 職業紹介状況

①求人関係

新規求人数は、71人（前月比+9人、14.5%の増、前年同月比：+6人、9.2%の増）となっています。

月間有効求人数は、177人（前月比-9人、4.8%の減、前年同月比：+41人、30.1%の増）となっています。

②求職関係

新規求職者数は9人（前月比-4人、30.8%の減、前年同月比：-4人、30.8%の減）となっています。

月間有効求職者数は42人（前月比±0人、増減なし、前年同月比+13人、44.8%の増）となっています。

③成立状況

当月の成立数は、6人（前月比：+6人、前年同月比：-4人、±0人、増減なし）となっています。

④職員・部員別成立者内訳

職種別の内訳は、甲板部職員0人、機関部職員3人、甲板部部員2人、機関部部員0人、事務部部員1人となっています。

2. 新規求人・求職者の取扱実績

①職種別内訳

新規求人の職種別内訳は、職員54人（甲板部32人、機関部22人、無線部0人、事務部0人）、部員17人（甲板部13人、機関部3人、無線部0人、事務部1人）となっています。

新規求職の職種別内訳は、職員4人（甲板部4人、機関部2人、無線部0人、事務部0人）、部員5人（甲板部5人、機関部0人、無線部0人、事務部0人）となっています。

②新規求職者の退職理由

内訳は、船舶所有者の都合が1人、定年退職0人、雇用期間満了0人、本人の申し出4人、自己の健康1人、倒産0人、就労中1人、不明2人となっています。

③新規求職者の年齢別

30歳未満1人、30歳代2人、40歳代2人、50歳代3人、60歳以上1人となっています。50歳以上は4人で占める割合は44.4%、30歳未満の占める割合は11.2%です。

3. 失業等給付金支給状況

当月末の受給資格者数は20人で、基本手当の支払実人数は1人、給付件数は2件となっています。給付金額は85,116円です。前月は3人、給付件数は3件、給付金額は405,394円でした。

それから、高年齢求職者給付金が0件、0円、再就職手当が0件、0円、就業促進定着手当が0件、0円、その他が0件、0円。よって、当月支給額計は、85,116円となります。

4. 月間有効求人倍率の推移

1月の近畿船員は4.21倍で、前月比-0.22ポイント、前年同月比、-0.48ポイントとなっています。

5. 近畿運輸局、月間有効求人・求職状況

①月間有効求人は177人で、このうち、新規求人者数は71人となっています。

当局の紹介による求人側の成立は3人、他局成立は0名でございました。求人の取り消しは45人で、理由の内訳は有効期限切れ45人、自己応募・縁故により採用0人、会社都合により取り下げ0人、その他は0人となっています。

②月間有効求職者は42人で、前月との差は0人でした。

当局の紹介による求職側の成立は0人、他局成立は3人でした。求職の取り消しは9人で、理由の内訳は期限切れ6人、自己応募・縁故により採用0人、自己都合により取り下げ3人、その他0人となっています。

6. 全国運輸局別の有効求人、有効求職、成立数、有効求人倍率

①12月の全国の月間有効求人数は、3,148人で、前月比47人減の98.5%、前年同月比101人増の103.3%となっています。

②12月の全国の月間有効求職数は、616人で、前月比15人増の102.5%、前年同月比77人増の114.3%となっています。

③12月の全国の成立数は、30人で、前月比6人減の83.3%、前年同月比2人増の107.1%となっています。

④ 1 2 月の全国船員の有効求人倍率は季節調整値により 4. 77 倍とな
っています。全国陸上は季節調整値により 1. 19 倍となっています。
以上が管内の雇用等の状況でございます。

横見部会長：

ありがとうございます。

資料 1、2 についてご質問等ございますでしょうか。

横見部会長：

無いようですので、次に議題 2 の「その他」に入ります。

運輸局の方から説明をお願いします。

三浦海事振興部次長：

資料 4 を説明申し上げます。

まず、令和 7 年 1 2 月分の内航海運の輸送動向調査の概要ですが、貨物船
と油送船を合計した輸送量は前年同月比 99% となっております。

荒天の影響が年末にかけて長期間に亘り見られたようです。

貨物船は 紙・パルプ、雑貨、自動車は増加

鉄鋼、原料、燃料（石炭、コークス）、セメントは減少

油送船は 黒油、白油以外の品目において増加のようです。

1 2 月の貨物船の輸送量は、前年同月比 99%、前月比で 99% となっ
ています。

鉄鋼は 98%、一部メーカーでは高炉火災の影響により出荷が減少した
ようです。なお、この不足分を補うため、他地域からの代替輸送も見られた
ようです。

原料は 98%、非金属鉱、その他原材料は増加したが、石灰石、スラグ、
金属鉱が減少したため原料全体で減少となったようです。

なお、石灰石は一部で設備の定期修理が見られたようです。

燃料は 95%、石炭、コークス、いずれも減少となったようです。

とくにコークスについては、一部の工場で工場間における輸送が少なかったことが、減少要因として挙げられています。

紙・パルプは 111%、紙、パルプは減少が見られたようです。木材については、電力向けのバイオマス燃料の輸送において、11月に輸送予定だったものが12月に繰り越された貨物が見られたようです。

雑貨は 103%、沖縄航路では分蜜糖（さとうきび）の加工品の輸送のほか、2月からの種まきシーズンに備えた肥料についての輸送が盛んになってきたようです。なお、今月も一部の RORO 船で船員不足により運航が出来ていない航路があったのと、引き続き、僅かであるがサイバー攻撃による製品の出荷停止の影響が見られているようです。

自動車は 102%、前年同月に一部メーカーで製品の生産停止があり出荷の停滞から減少となっていたため、反動増が見られたようです。

セメントは 95%、12月は荒天の影響のほか、一部で臨時入渠したセメント専用船も見られたようです。

続きまして、油送船の輸送量ですが、前年同月比 98%で、前月比104%となっています。

黒油は 89%、前月の元売りの設備で大規模なメンテナンスがあった製油所間転送は解消されたのと、季節需要により高稼働となったものの、年末の荒天により長期停船が発生したようです。

一方で、電力需要は前年同月比で減少しているようです。

白油は 99%、黒油同様に前月に見られた大規模なメンテナンスによる製油所間転送は解消されたようです。

灯油、軽油の輸送は増加で推移したようですが、年末の荒天による長期停船により結果的には微減となったようです。

それでは次に、貨物ごとの状況です。12月の対前年比欄と、右側の対前月の欄をご覧ください。

鉄鋼の前年比は、	98.1%で、	前月比	96.2%
原料の前年比は、	97.6%で、	前月比	106.6%
燃料の前年比は、	95.0%で、	前月比	108.7%

紙・パルプの前年比は、110.6%で、前月比 102.8%
雑貨の前年比は、102.6%で、前月比 100.9%
自動車の前年比は、102.3%で、前月比 89.2%
セメントの前年比は、95.3%で、前月比 101.3%
貨物船全体の輸送量は、1,709万6千トンで
前年比が、98.8%で、前月比 99.3%となっています。

黒油の前年比は、88.9%で、前月比 103.6%
白油の前年比は、99.2%で、前月比 105.4%
ケミカルの前年比は、102.3%で、前月比 96.3%
一般タンカーの輸送量は、754万7千トンで
前年比が、96.8%、前月比 104.1%となっています。

続きまして、

高压液化の前年比は、109.4%で、前月比 110.6%
高温液体の前年比は、105.1%で、前月比 93.3%
耐腐食の前年比は、108.8%で、前月比 95.6%
特タン船の輸送量は、108万7千トンで
前年比が、108.8%で、前月比 103.0%となっており、
全てのタンカーの合計は、863万4千トンで
前年比が、98.1%で、前月比 103.9%となっています。

次に資料5、令和7年12月における長距離フェリーの輸送実績でございます。

12月の欄と、右のほうの対前月、対前年同月比のところをご覧ください。

まずは「トラック」ですが、

北海道方面では、11,050台となっており、前月比が 92.1%、
前年比 91.9%

北九州方面では、32,153台となっており、前月比が106.4%、
前年比 95.9%

中九州方面では、11,194台となっており、前月比が94.2%、前年比102.5%

南九州方面では、14,016台となっており、前月比が108.9%、前年比101.8%となっています。

次のページの「旅客」では、

北海道方面では、

6,834人となっており、前月比が55.3%、前年比103.6%

北九州方面では、

75,122人となっており、前月比が94.4%、前年比98.9%

中九州方面では、

35,804人となっており、前月比が81.9%、前年比116.3%

南九州方面では、

29,296人となっており、前月比が95.2%、前年比109.9%となっています。

最後に、次のページの「乗用車」では、

北海道方面では、

2,361台となっており、前月比が76.9%、前年比95.9%

北九州方面では、

24,284台となっており、前月比が96.9%、前年比105.4%

中九州方面では、

5,656台となっており、前月比が88.2%、前年比115.1%

南九州方面では、

8,051台となっており、前月比が97.7%、前年比105.3%となっています。

- ・ 船員養成・就業拡大に向けた訴求強化戦略（説明）
- ・ 令和8年度海事局関係予算概要（説明）

横見部会長：

ありがとうございました。

それでは、これまでの説明についてご質問等ございますでしょうか。

横見部会長：

資料4の2ページ目、「RORO船の一部航路では船員不足による運休も影響している。」と書いてありますが、詳しいことをご存じでしたら教えてください。

三浦海事振興部次長：

働き方改革における労働時間問題に関連して、人員の振り分けがうまく回らなくなったというのが要因だったかと思います。加えて、求人・人材確保が難しくなっていることも実態としてあるかと記憶しております。

横見部会長：

「一部航路」と書いてありますが、限定的なものなのでしょうか。

三浦海事振興部次長：

今は「一部航路」とありますが、皆さんもかなり厳しいといった同じような感覚をお持ちかと思います。陸上休暇をさせるための交代要員とか、緊急で体調が悪くなった場合の交代要員を船員確保だとか、いろいろな要因があるかと思います。今回は、ただ一部船員不足で回っていないという話がでていたというところです。

横見部会長：

トラックドライバーの労働時間短縮、働き方改革の受け皿の一部となるべきRORO船で船員不足が起こっているというのは、なかなか厳しい状況かと思いました。

土屋委員：

船員不足で船が止まっているというのは、いろいろなところで起きているかと思います。

横見部会長：

RORO船以外もでしょうか。

土屋委員：

統計をとっていないので正確なデータがありませんが、タンカーでも感覚的に短期も含めれば延べで数十杯以上の船が止まっていると推定されます。一方で、個人船主等を中心に、船員がいないので廃業といった話はよく聞きます。そういった状況は、ここ1、2年で急激に増えているのではないかと感じています。

横見部会長：

いろいろな要因があるかと思いますが、例えば、船員の数自体が、退職等で減っているのか、あるいは船員の数は減っていないけれど、労働時間の制約が厳しいだとか、肌感覚的で結構なので、どういう原因が一番大きく作用していると思われますか。

土屋委員：

若い船員は、数だけ見るとそれなりに入ってきていると思いますが、ワッチが取れない（職員になれない）人も多く、そういった人材が育っていないのが一つの要因かと思います。また、船員の流動性が高くなり、他社に纏めて突然引き抜きをされる船も散見されます。もちろん、労働時間、働き方改革で船を止めなければならないケースと、逆にオペが船は止められない場合に長期乗船で休暇が取れず辞める船員が増えるなど、いろいろな要素が絡み合っていると思います。

横見部会長：

はい、ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

横見部会長：

それでは次に、船員政策や船員労働全般に関わる様々な問題につきまして、ご意見や情報などございましたらご発言をお願いいたします。

では、まず労働者委員のほうから、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

横見部会長：

では続いて、使用者委員のほうから何かございますでしょうか。

礮合委員：

先月に説明いただいた、基本訓練についての制度が、2月14日から変わっていますが、状況はいかがでしょうか。

濱田船員労働環境・海技資格課長：

問合せも多く受けており、手続きにおいても大変時間お時間をいただいている状況です。改正直後でもありますので、まずはヒアリングをしながら丁寧に対応しています。

また、本省のホームページでも、質疑応答などの情報が随時更新されていますので、ご確認いただければと思います。

礮合委員：

地方の自治体でも同じ対応でしょうか。

濱田船員労働環境・海技資格課長：

管内の指定市町村には我々からの情報提供や、本省の説明会にご参加いただいた上でご対応いただいています。

横見部会長：

はい、ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。
よろしいでしょうか。

横見部会長：

では続いて、公益委員のほうから何かございますでしょうか。

横見部会長：

最近、宿泊費の高騰が非常に顕著な状況で、特に若者のような低予算で移動する人たちは、宿泊を避けて夜行バスを使うことが増えてきて、夜行バスの人気が再び到来したような傾向があるようですが、長距離フェリーの状況はいかがでしょうか。資料を見たところ、中九州と南九州は前年と比べて伸びているので、どういった要因かなどの情報はお持ちでしょうか。

寺地海事振興部長：

フェリー会社によると、万博が開催されていた期間にフェリーを利用された方は、万博が終わった後でも乗ってくれているそうです。短い航路などはあまり恩恵を受けていないなど、航路によって差はあるのですが、九州については万博後も持続して乗ってくれているようです。

横見部会長：

はい、ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。
よろしいでしょうか。

横見部会長：

事務局のほうからはいかがでしょうか。
よろしいでしょうか。

横見部会長：

それでは本日の部会は終了いたします。

次回は3月26日（木）16時00分からとなっておりますので、皆様よろしくお願いたします。

（配付資料）

資料1．令和8年1月分 近畿運輸局管内船員職業紹介実績表

資料2．令和8年1月分 月間有効求人・求職状況（近畿管内）

資料3．令和7年12月分 局別月間有効求人数（商漁船・職部員別）等

資料4．内航輸送実績状況（令和7年12月分まで）

資料5．長距離フェリー輸送実績の推移（令和7年12月まで）

資料6．船員養成・就業拡大に向けた訴求強化戦略

資料7．令和8年度海事局関係予算概要